

Oracle VM 用 Sun Fire X4800 M2
サーバー設置マニュアル



Part No: E24563
2011 年 8 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このマニュアルの使用方法	5
製品のダウンロード	5
ドキュメントおよびフィードバック	6
このドキュメントについて	6
寄稿者	7
変更履歴	7
Oracle VM のインストールの概要	9
OS のインストール準備	11
システムコンソールへの接続	11
起動ハードディスクを消去する方法	11
仮想ディスクの作成方法	12
ブートドライブを設定する方法	26
Oracle VM のインストール	29
システム要件	30
Oracle VM ソフトウェアを取得する方法	31
Oracle VM Server をインストールする方法	31
Oracle VM Manager をインストールする方法	32
VM リソースの作成と管理	33

このマニュアルの使用方法

この節では、製品情報、ドキュメントとフィードバックのリンク、およびドキュメントの変更履歴を示します。

- 5 ページの「製品のダウンロード」
- 6 ページの「ドキュメントおよびフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

製品のダウンロード

すべての Oracle x86 サーバーおよびサーバーモジュール (ブレード) 用のダウンロードは、My Oracle Support (MOS) にあります。MOS には 2 種類のダウンロードがあります。

- ラック搭載サーバー、サーバーモジュール、モジュラーシステム (ブレードシャーシ)、または NEM に固有のソフトウェアリリースバンドル。これらのソフトウェアリリースバンドルには、Oracle ILOM、Oracle Hardware Installation Assistant、および他のプラットフォームのソフトウェアとファームウェアが含まれます。
- 複数のタイプのハードウェアで共通するスタンドアロンソフトウェア。これには、Hardware Management Pack と Hardware Management Connectors が含まれます。

▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページの上部にある「Patches and Updates (パッチと更新)」タブをクリックします。
- 4 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (製品またはファミリー)」 (「Advanced Search (高度な検索)」) をクリックします。

- 5 「Product? Is (製品は?)」 フィールドに、一致するもののリストが表示されるまで製品名の全体または一部を入力し(例: **Sun Fire X4800 M2**)、目的の製品を選択します。
- 6 「Release? Is (リリースは?)」 プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
- 7 表示されたウィンドウで、製品フォルダアイコンの横にある三角印(>)をクリックして選択肢を表示してから、該当するリリースを選択し、「Close (閉じる)」をクリックします。
- 8 「Patches Search (パッチ検索)」 ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。製品のダウンロードのリスト (パッチとしてリストされる)が表示されます。
- 9 目的のパッチ名を選択します。たとえば、**X4800SW1.1 - Oracle ILOM** および **BIOS** の場合は **10333322** です。
- 10 表示された右側の区画で、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

ドキュメントおよびフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Fire X4800 M2	http://download.oracle.com/docs/cd/E20815_01/index.html
Oracle ILOM 3.0	http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html#ilom

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は (オンラインヘルプと同様の) トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、節などの番号はありません。

特定のトピック (ハードウェア設置やご使用にあたってなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を取得するには、ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

寄稿者

主な執筆者: Ralph Woodley、Michael Bechler、Ray Angelo、Mark McGothigan。

寄稿者: Kevin Cheng、Tony Fredriksson、Richard Masoner。

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2011年7月。初版。

Oracle VM のインストールの概要

本書には、サーバーに Oracle VM をインストールする手順が記載されています。ここでは、次の内容について説明します。

- 11 ページの「OS のインストール準備」
- 29 ページの「Oracle VM のインストール」

OS のインストール準備

オペレーティングシステムをインストールするには、事前に特定の作業を行う必要があります。この作業は、OS がブートドライブにすでにインストールされているかどうか、またはこれまでにパーティションが設定されていない新しいドライブであるかどうかによって異なります。

この章は、次のタスクで構成されています。

- 11 ページの「システムコンソールへの接続」
- 11 ページの「起動ハードディスクを消去する方法」
- 12 ページの「仮想ディスクの作成方法」
- 26 ページの「ブートドライブを設定する方法」

システムコンソールへの接続

システムコンソールに接続するには、次のいずれかの方法を選択します。

- マルチポートケーブルを使用してローカルに接続する。『Sun Fire X4800 M2 サーバースerviceマニュアル』の「マルチポートケーブルの取り外しと取り付け」を参照してください。
- Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) を使用する。『Sun Fire X4800 M2 サーバースetupマニュアル』の「Oracle ILOM およびシステムコンソールとの通信」を参照してください。
- Oracle ILOM Web インタフェースを使用してリモートに接続する。『Sun Fire X4800 M2 サーバースetupマニュアル』の「Oracle ILOM およびシステムコンソールとの通信」を参照してください。
- PXE 環境を通じて、カスタマイズされた PXE イメージを使用する。『Sun Fire X4800 M2 サーバース Linux オペレーティングシステム設置マニュアル』の「PXE インストールをサポートする Linux サーバースの設定」を参照してください。

▼ 起動ハードディスクを消去する方法

サーバースのハードドライブに Oracle Solaris OS がインストール済みであることがあります。OS がインストールされている場合、Oracle VM をインストールする前に OS を消去する必要があります。

始める前に ツールとドライバの CD のコピーを入手します。



注意-この手順によって、すべてのデータがハードドライブから消去されます。必要なデータはこの手順を開始する前にバックアップしてください。

- 1 保存する必要があるハードドライブのデータをバックアップします。
- 2 ツールとドライバの CD をリモートコンソール (JavaRConsole) に挿入します。
『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』の「Oracle ILOM およびシステムコンソールとの通信」を参照してください。
- 3 ツールとドライバの CD からシステムをブートします。
ツールとドライバのメインメニューが表示されます。
- 4 「Erase Primary Boot Hard Disk」を選択します。
「Erase Primary Boot Hard Disk」コマンドにより、プライマリハードドライブ上の診断パーティションを除くすべてのパーティションが消去されます。既存の診断パーティションは消去されません。

次の手順 「12 ページの「仮想ディスクの作成方法」」に進みます。

▼ 仮想ディスクの作成方法

オペレーティングシステムをインストールする前に、サーバー上に仮想ディスクを作成して、イメージのダウンロードに必要な領域を確保する必要があります。このダウンロードによってディスクの内容が消去されます。

オペレーティングシステムをダウンロードするための仮想ディスクは、LSI ファームウェアから作成できます。LSI ファームウェアには、サーバーの起動時のみアクセスできます。OS が起動する前に LSI バナーが表示されているときに、Ctrl キーを押しながら H キーを押すと、LSI インタフェースが表示されます。

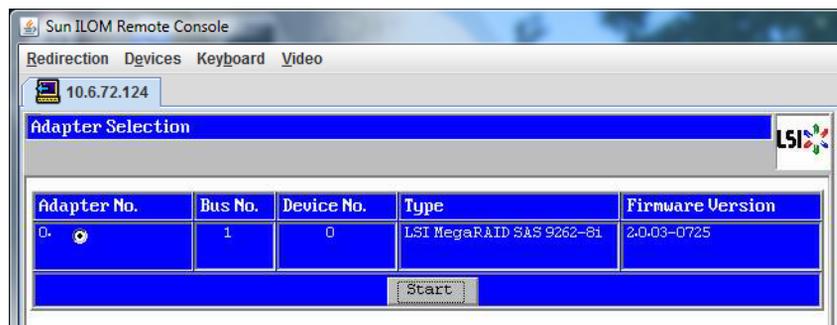
注-仮想ディスクは、Tools and Drivers DVD の追加ドライバを通じてインストールされる MegaRAID ソフトウェアから作成することもできますが、オペレーティングシステムのインストールには使用しないでください。

- 1 サーバーには、サービスプロセッサ (SP) モジュールの IP アドレスを使用してログインします。
- 2 Web インタフェースウィンドウで「Remote Control」タブをクリックして、Oracle ILOM リモートコントロールを起動します。

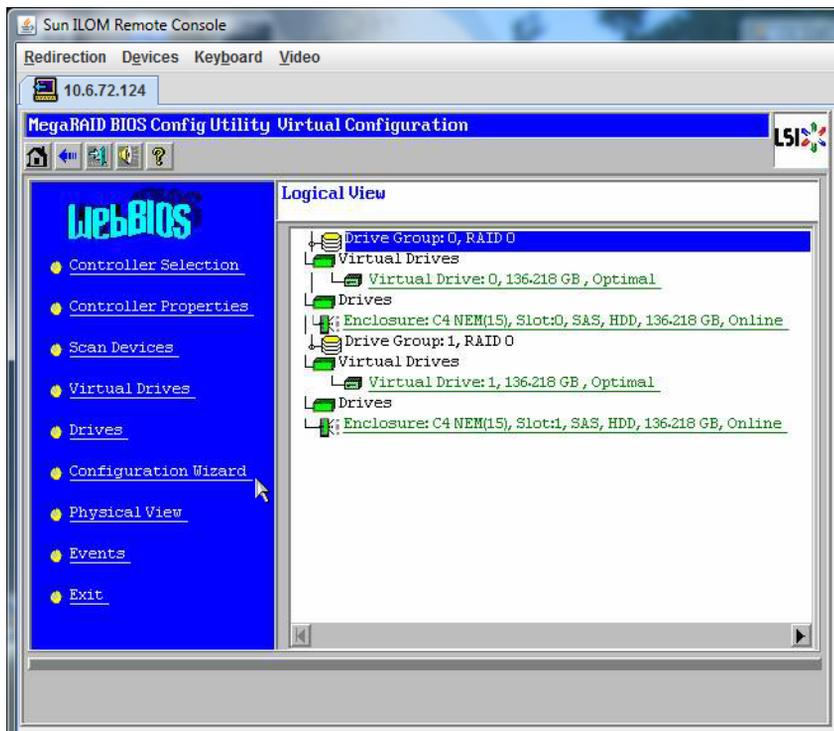
- 3 「KVMS」タブ>「Mouse Mode」>「Relative」の順にクリックし、「Save」をクリックします。

注- 「Relative」オプションを選択すると、リモートコンソールでマウスをウィンドウからウィンドウに動かすことができるようになります。この手順の最後で、このマウス設定を「Absolute」に変更するよう求められます。

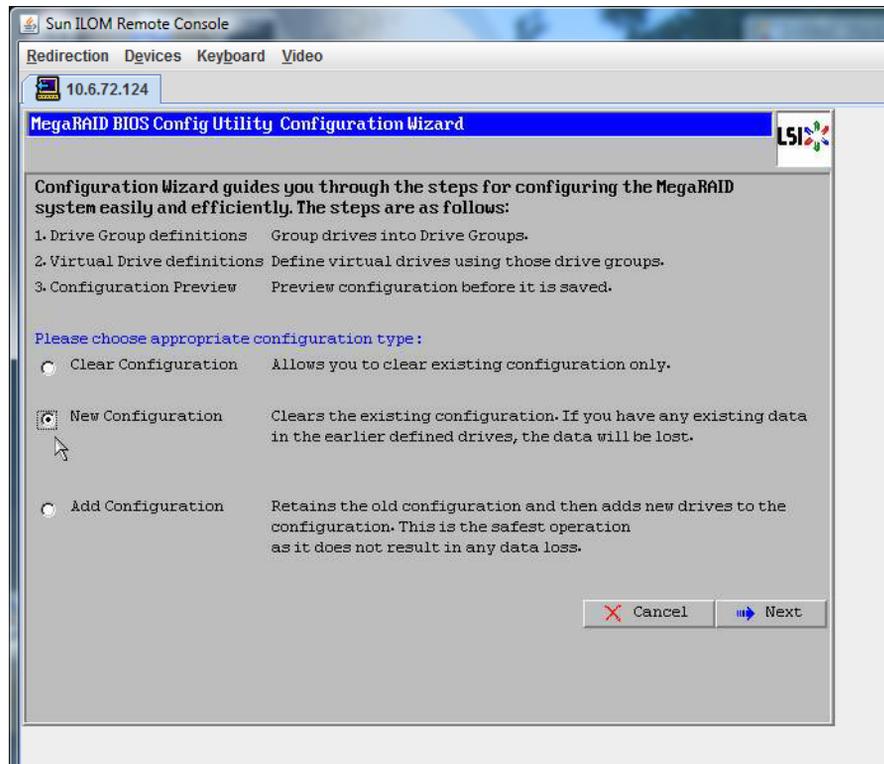
- 4 「Redirection (リダイレクション)」タブをクリックします。
「Redirection」画面が表示されます。
- 5 「Launch Remote Console」をクリックします。
「Oracle ILOM 3.0 remote console」ウィンドウが表示されます。
- 6 「Devices」メニューをクリックし、「Mouse」を選択してマウスを有効にします。
- 7 システムを再起動します。
- 8 LSIバナーを待機します。バナーページにデバイスが表示されたら、Ctrlキーを押しながらHキーを押します。
「Adapter Selection」画面が表示されます。
- 9 「Start」をクリックします。
「MegaRaid BIOS Config Utility Virtual Configuration」画面が表示されます。



- 10 「Configuration Wizard」をクリックします。
「Configuration Wizard」画面が開きます。



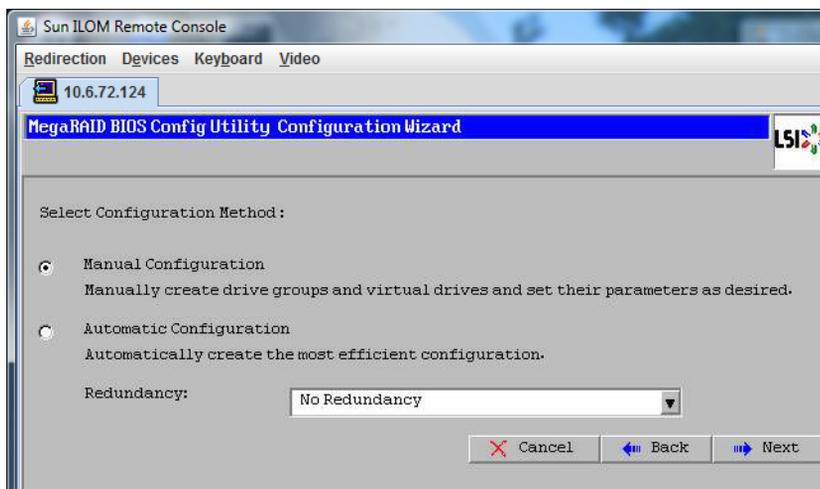
- 11 「New Configuration」をクリックし、「Next」をクリックします。



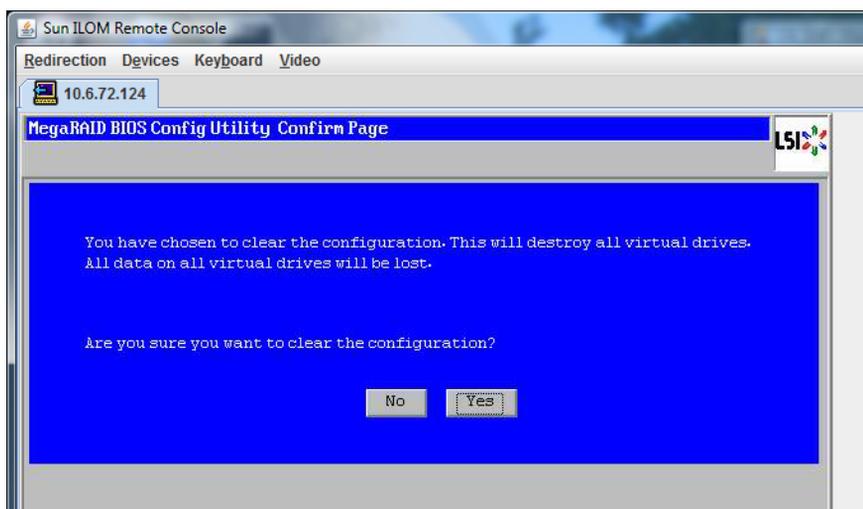
- 12 「Manual Configuration」を選択します。

「Automatic Configuration」を選択すると、システム上のすべてのハードドライブを含む単一の仮想ドライブが作成されます。複数のドライブがストライプセット (RAID0) として設定され、結合された記憶域の単一の仮想ドライブとして表示されます。

注- この設定は、複数の障害点を許容するため、最適ではない可能性があります。たとえば、1つのドライブに障害が発生した場合、オペレーティングシステムを起動できません。次に、1つを除き、すべてのドライブを取り外す必要があります。または、「Manual Configuration」を選択して、1つのハードドライブだけを使用して仮想ドライブを作成することもできます。

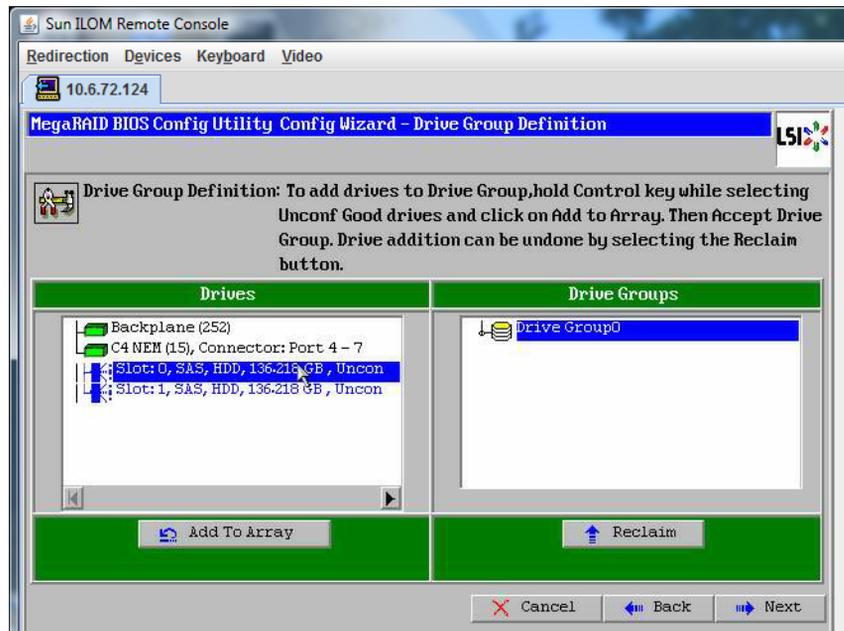


- 13 確認ウィンドウが表示されたら、「Yes」をクリックします。

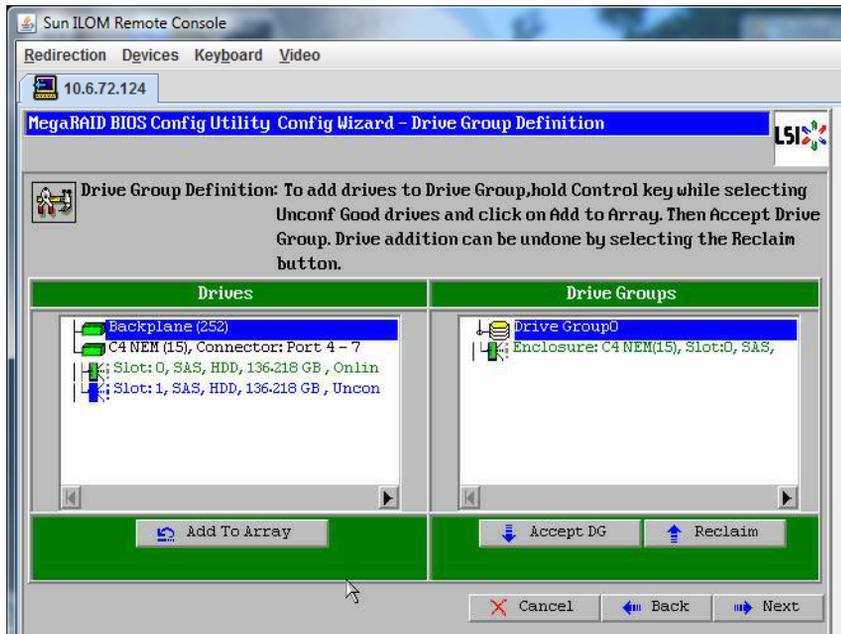


「MegaRAID BIOS Config Utility Config Wizard – Drive Group Definition」画面が表示されます。

- 14 システム内のドライブとドライブグループが表示されることを確認します。目的のドライブを選択して、「Add To Array」をクリックします。

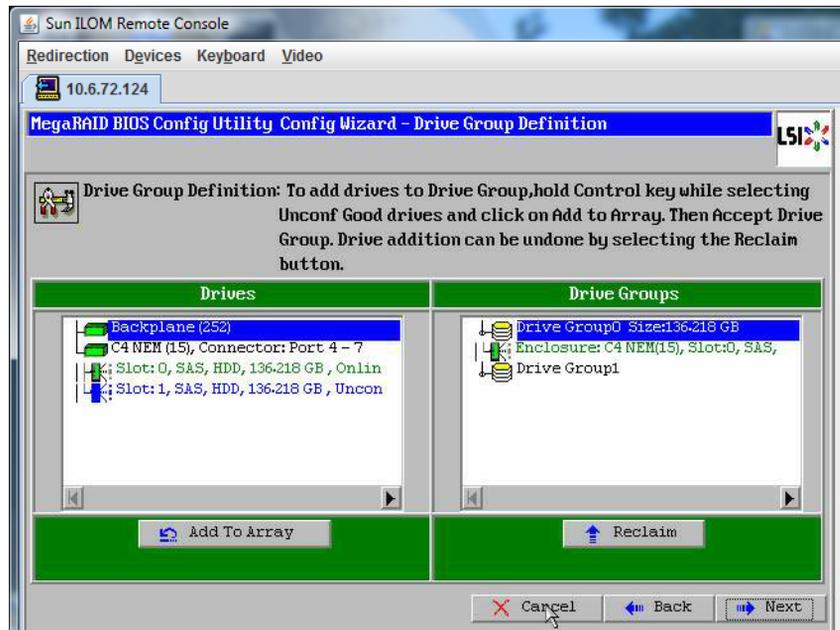


- 15 「Accept DG」をクリックしてドライブグループを作成します。
Drive Group0が表示されます。

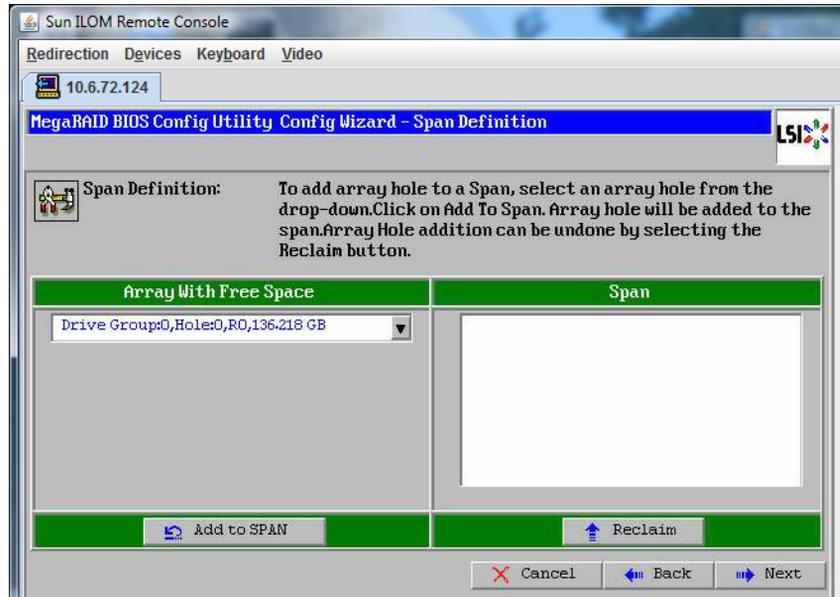


- 16 「Next」をクリックします。
ドライブグループが「Span Definition」ウィンドウに表示されます。

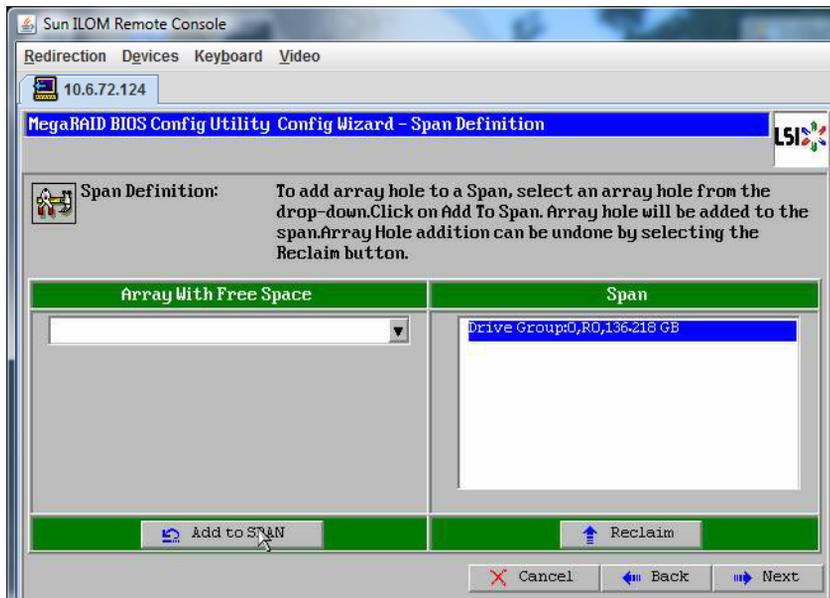
注- ドライブグループの選択は、「Reclaim」ボタンをクリックして取り消すことができます。



- 17 「Add to SPAN」をクリックします。

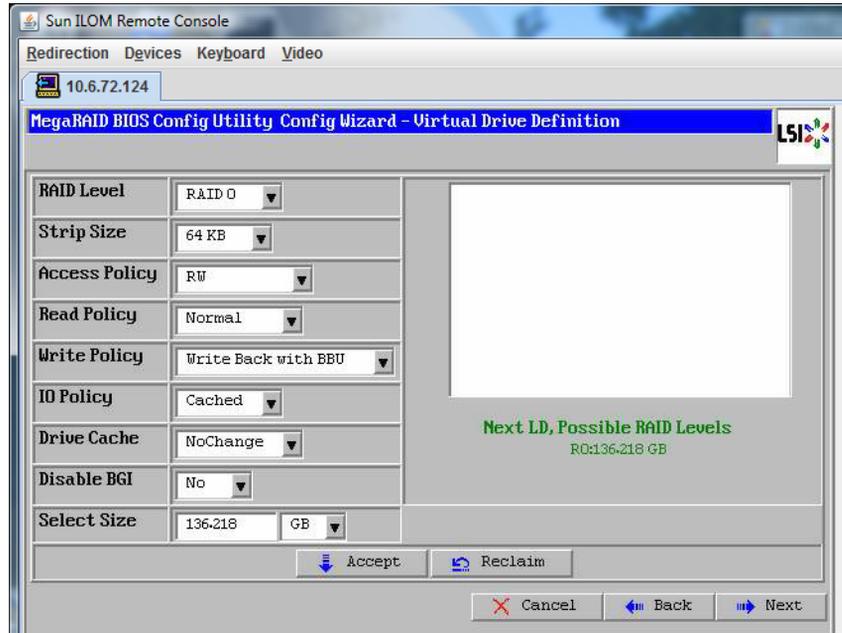


- 18 ドライブグループが「Span」に表示されることを確認します。「Next」をクリックします。

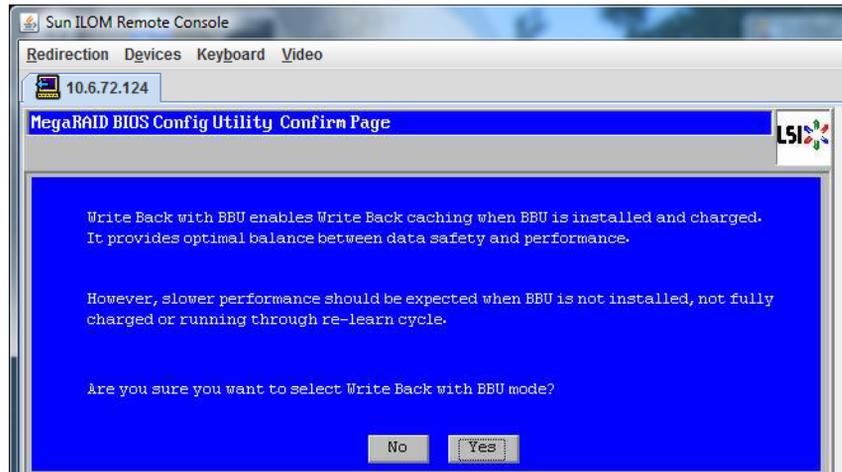


「Virtual Drive Definition」画面が表示されます。

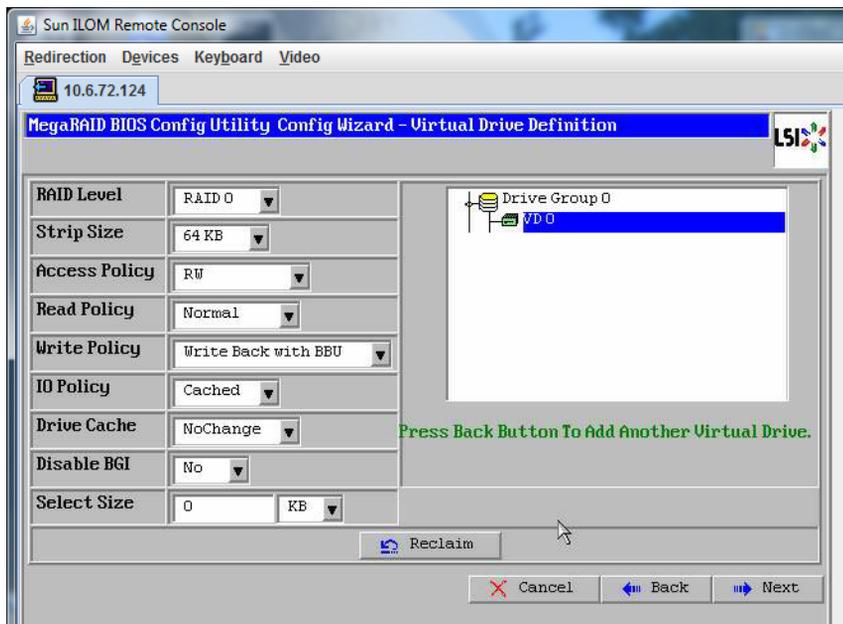
- 19 仮想ドライブの RAID レベルと設定値を設定して、「Accept」をクリックします。
RAID の設定については、サーバーのディスク管理マニュアルを参照してください。



「Write Back with BBU mode」を確認するプロンプトが表示されます。

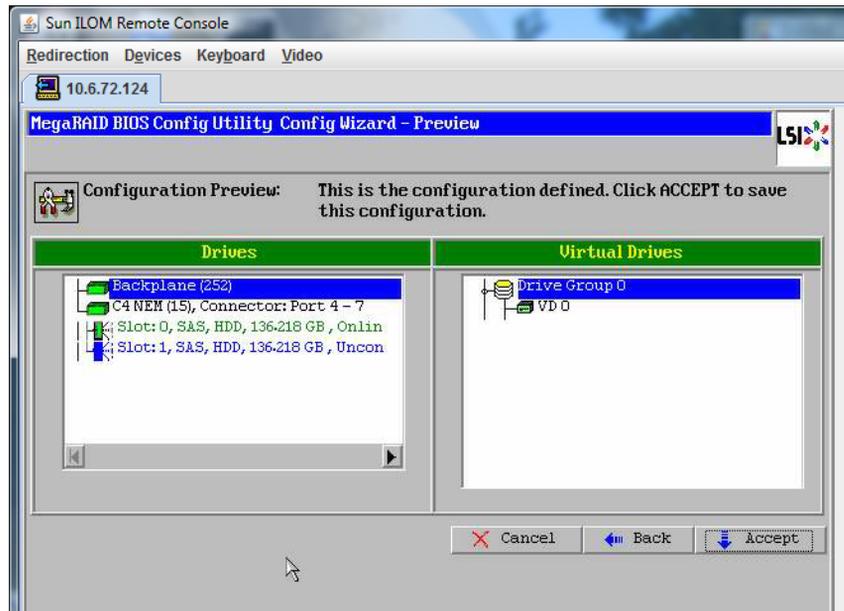


- 20 「Yes」をクリックします。
Config Wizard のウィンドウが表示されます。

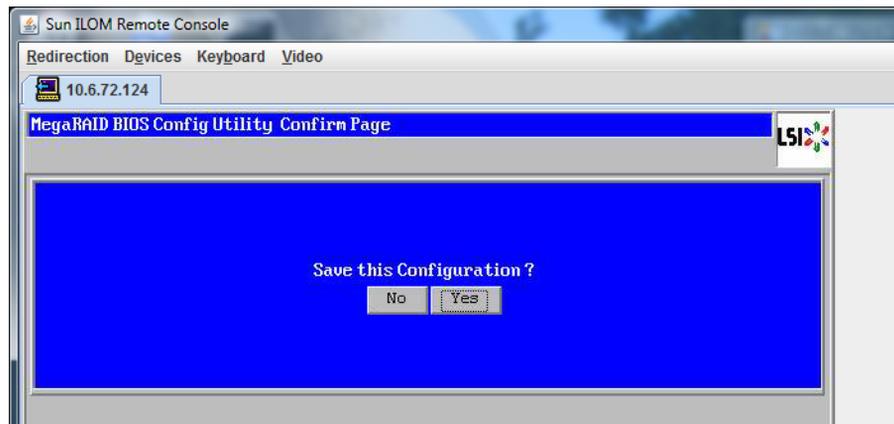


- 21 「Next」をクリックします。
「Preview」画面が表示されます。

- 22 仮想ドライブに **Drive Group 0** が含まれていることを確認します。
この「Preview」画面例は、「Manual Configuration」オプションを使用した単一の仮想ドライブを示しています。

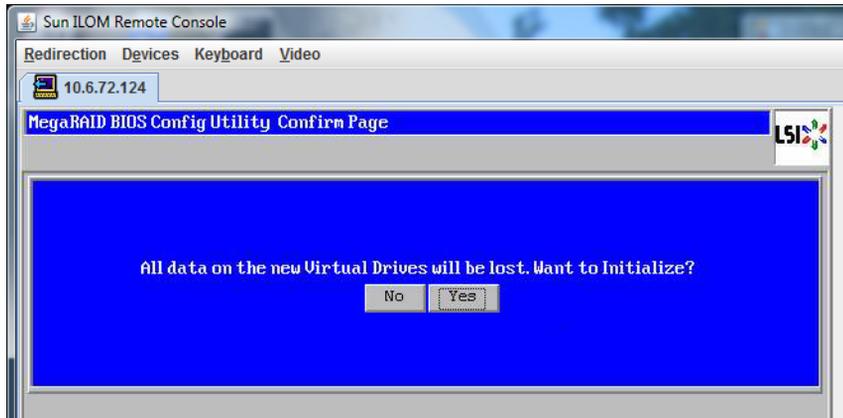


- 23 「Yes」をクリックして設定を保存します。

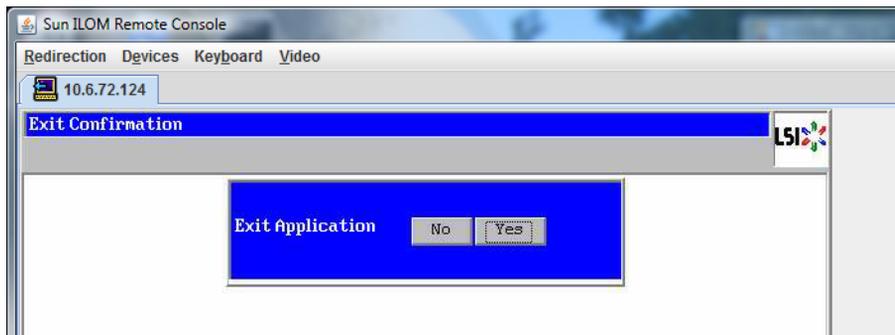


「All data on Virtual Drivers will be lost. Want to Initialize?」というプロンプトが表示されます。

- 24 プロンプトに対して「Yes」をクリックします。仮想ドライブのすべてのデータが削除されます。初期化するかどうかを指定します。



- 25 「Yes」をクリックして終了します。

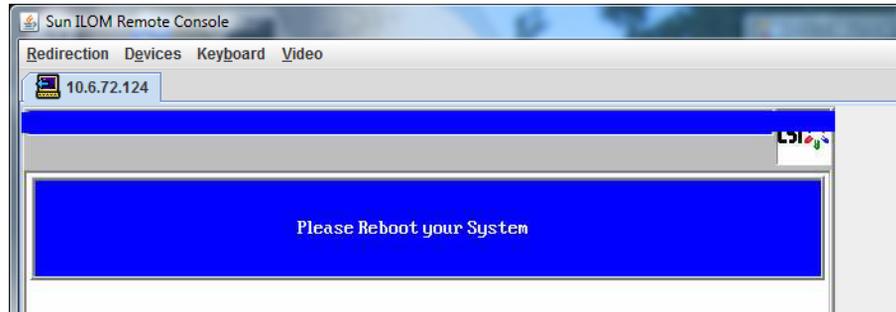


「Please Reboot Your System」というプロンプトが表示されます。

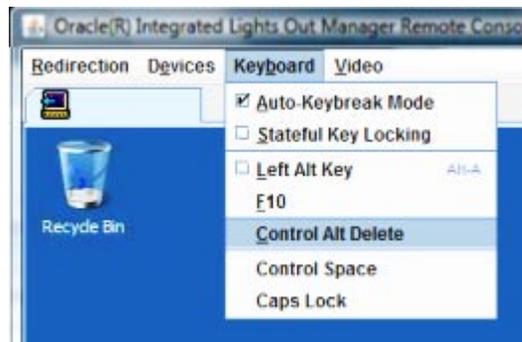
- 26 Alt キーを押しながら B キーを押して、キーボードプルダウンメニューを表示します。



注意 - この手順を実行しない場合は、次の手順で「Control Alt Delete」を選択したときにローカルマシンが再起動されます。



- 27 矢印キーを使用してメニュー内の「Control Alt Delete」を選択し、リモートシステムを再起動します。Enterを押します。



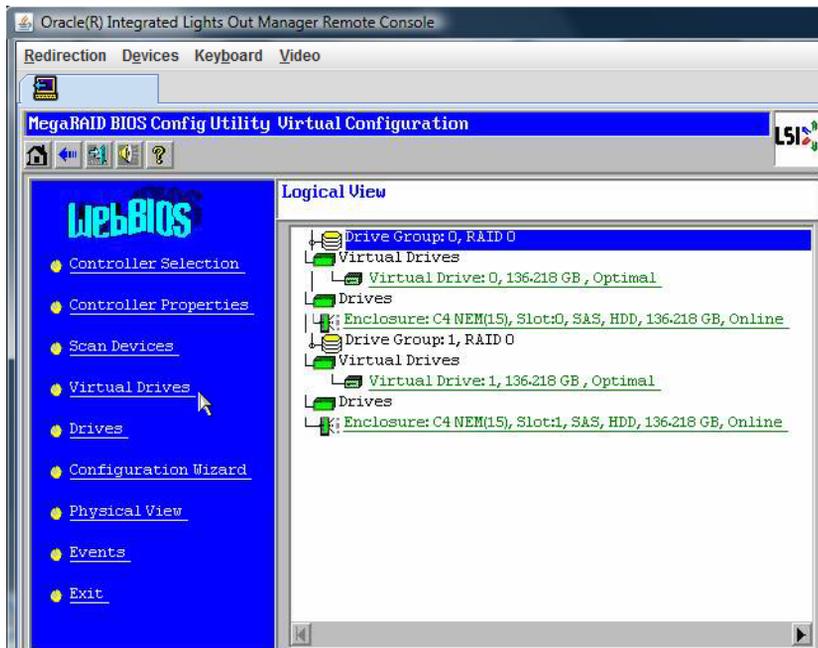
- 28 元の画面に戻り、マウスモードを「Absolute」に設定します。
- 「Remote Control」画面で「KVMS」タブをクリックします。
 - 「Mouse Mode」で「Absolute」を選択します。
 - 「Save」をクリックします。

次の手順 26 ページの「ブートドライブを設定する方法」

▼ ブートドライブを設定する方法

作成した仮想ドライブにオペレーティングシステムをインストールする場合は、ドライブをブートドライブとして設定する必要があります。

- 1 「Configuration Wizard」画面で「Virtual Drives」を選択します。



「MegaRAID BIOS Config Utility Virtual Drives Configuration」画面が表示されます。

- 2 オプションの1つとして「Set_Boot Drive (current=none)」が表示されているかどうかを確認します。
「Set_Boot Drive (current=none)」オプションが表示されている場合は、ブートドライブが設定されていません。



- 3 「Set_Boot Drive (current=none)」をオンにして、「Go」をクリックします。
ブートドライブが設定されます。

Oracle VM のインストール

サーバーは Oracle VM 2.2.2 に対応しています。Oracle VM は、ユーザーが仮想マシン (Virtual Machine、VM) を作成して管理できる仮想化環境プラットフォームです。これらの仮想マシンは同じ物理サーバーに存在しますが、独立した物理サーバーのように動作します。Oracle VM で作成された各仮想マシンには、独自の仮想 CPU、オペレーティングシステム、ネットワークインタフェース、およびストレージがあります。

Oracle VM は、次のコンポーネントで構成されています。

- **Oracle VM Manager:** 仮想マシンを作成して管理するためのユーザーインタフェースの役割を果たす Web アプリケーション。これには、仮想マシンの作成 (テンプレートを含む)、ライフサイクル管理 (配備、移行、および削除)、およびリソース管理 (ISO ファイル、テンプレート、および共有ストレージリソース) が含まれます。
- **Oracle VM Server:** 仮想マシンと Oracle VM エージェントの実行に使用する Xen ハイパーバイザをベースとした、セキュリティー保護された軽量の仮想化環境。
- **Oracle VM Agent:** Oracle VM Server 上にインストールされ、Oracle VM Manager と通信します。Oracle VM Server、サーバープール、およびリソースを管理するための Web サービス API が含まれています。

この節では、Oracle VM のインストールに関する次のトピックについて説明します。

手順	説明	リンク
1	システム要件を確認します。	30 ページの「システム要件」
2	インストールイメージを取得し、それを DVD に焼き込むか、サーバー上にコピーします。	31 ページの「Oracle VM ソフトウェアを取得する方法」
3	Oracle VM Server をインストールします。	31 ページの「Oracle VM Server をインストールする方法」
4	Oracle VM Manager をインストールします。	32 ページの「Oracle VM Manager をインストールする方法」

手順	説明	リンク
5	共有ストレージ、サーバープール、および仮想マシンを作成します。	33 ページの「VM リソースの作成と管理」

システム要件

- Oracle VM のインストールには、静的 IP アドレスが割り当てられた 2 つのシステムが必要です。一方のシステムで Oracle VM Server を実行し、もう一方のシステムで Oracle VM Manager を実行します。
- Oracle VM Server を実行するシステムでは、最初にクリーンインストールを実行して、プリインストールされた OS やファームウェアレベルの RAID ボリュームを削除する必要があります。
- Oracle VM Manager を実行するシステムには、次の OS のいずれかをインストールする必要があります。
 - Oracle Enterprise Linux Release 4.5 以降
 - Red Hat Enterprise Linux Release 4 以降
- Oracle VM メディアセットまたはそれに相当する ISO イメージ。ISO イメージを使用すると、リモートインストールの実行や、インストール CD/DVD の作成が可能です。
- Oracle VM ソフトウェアのリリースノートを確認してください。http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm に移動します。
- DVD-ROM ドライブ。

注-リモートインストールを実行する場合は、DVD-ROM ドライブ、キーボード、マウス、およびモニターを、サーバーではなくローカルシステムに接続します。また、実際の CD/DVD ではなく、ISO イメージを使用することもできます。

- USB で接続したキーボードとマウス。
- モニター。
- ネットワークを使用したサーバーのオペレーティングシステムの設定時に、Oracle VM Server で使用されている各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。詳細については、『Sun Fire X4800 M2 サーバー Linux オペレーティングシステム設置マニュアル』の「Linux OS 設定用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」を参照してください。

▼ Oracle VM ソフトウェアを取得する方法

- 1 Oracle VM ソフトウェアを次の Web サイトからダウンロードします。

<http://www.oracle.com/virtualization>

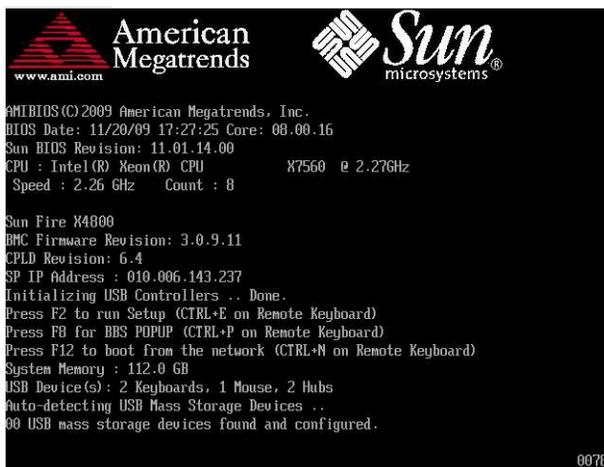
- 2 ソフトウェアをシステムにインストールする場合は、ISO イメージを CD/DVD に書き込みます。

Oracle VM Manager の CD/DVD と、ブート可能な Oracle VM Server の CD/DVD を入手する必要があります。

▼ Oracle VM Server をインストールする方法

始める前に 30 ページの「システム要件」を参照してください。

- 1 サーバーコンソールに接続します。詳細は、『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』の「Oracle ILOM およびシステムコンソールとの通信」を参照してください。
- 2 まだ行っていない場合は、手順1で選択した方法に応じて、Oracle VM Server の配布 CD/DVD を挿入するか、または ISO イメージ配布メディアにアクセスします。
- 3 サーバーの電源を入れるか、サーバーをリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。



```
www.ami.com American Megatrends Sun microsystems®
AMIBIOS (C) 2009 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 11/20/09 17:27:25 Core: 08.00.16
Sun BIOS Revision: 11.01.14.00
CPU : Intel(R) Xeon(R) CPU X7560 @ 2.27GHz
Speed : 2.26 GHz Count : 8

Sun Fire X4800
BMC Firmware Revision: 3.0.9.11
CPLD Revision: 6.4
SP IP Address : 010.006.143.237
Initializing USB Controllers .. Done.
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
System Memory : 112.0 GB
USB Device(s) : 2 Keyboards, 1 Mouse, 2 Hubs
Auto-detecting USB Mass Storage Devices ..
00 USB mass storage devices found and configured.

0078
```

- メッセージで選択肢が表示されたら、**F8**を押します。
しばらくすると、起動デバイスの選択メニューが表示されます(次の例を参照)。



- 一覧から起動デバイスを選択します。
物理 CD/DVD または ISO イメージから起動するには、「CD/DVD (CD/DVD)」を選択します。
『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』の「Oracle ILOM およびシステムコンソールとの通信」を参照してください。
このメディア上の OS インストールプログラムへのパスを制御します。
- 起動プロンプトで **Enter** を押します。
- プロンプトに従ってソフトウェアをインストールします。
Oracle VM Server と Oracle VM Agent ソフトウェアがインストールされます。
詳細については、次のサイトにある Oracle VM Server のインストールドキュメントを参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm

▼ Oracle VM Manager をインストールする方法

始める前に Oracle サーバーに Oracle VM Server をインストールしている場合、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用すると、CD/DVD またはリモートシステムにマウントされた ISO イメージのいずれかを使用してソフトウェアをインストールできます。リモートコンソール機能では、オペレーティングシステムをインストールするサーバーに接続されている場合と同様に、リモートシステムのキーボード、マウス、ビデオ、およびストレージを使用できます。リモートコンソールセッションを一度設定すれば、リモートでマウントされた配布メディア (CD/DVD またはそれに相当する ISO ファイル) からサーバーを起動できます。

- 1 サポートされているオペレーティングシステムを実行しているサーバーで、**Oracle VM Manager CD**を挿入してマウントします。
サポートされているオペレーティングシステムの詳細については、次のサイトにある Oracle VM Manager のインストールドキュメントを参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm

- 2 CDのルートに移動し、次のスクリプトを実行します。
sh runInstaller.sh

注 - まだ root ユーザーでない場合は、su コマンドを使用して root のパスワードを入力し、インストールスクリプトを起動するために必要な権限を自身に与えます。

- 3 プロンプトに従ってソフトウェアをインストールします。
詳細については、次のサイトにある Oracle VM Manager のインストールドキュメントを参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm

VM リソースの作成と管理

(Oracle VM Agent を備えた) Oracle VM Server と Oracle VM Manager をインストールしたあとは、仮想リソースを作成して管理できます。

- 共有ストレージリポジトリを作成します。耐障害性のために、このストレージを使用している複数の仮想マシンをクラスタ構成で設定できます。共有ストレージに対して次のいずれかのオプションを選択します。
 - インターネット SCSI (Internet SCSI、iSCSI) ネットワークプロトコルを使用する Oracle クラスタファイルシステム (Oracle Cluster File System、OCFS2)
 - ストレージエリアネットワーク (Storage Area Network、SAN) を使用する OCFS2
 - ネットワークファイルシステム (Network File System、NFS)
 - マルチパスフェイルオーバーを備えたパーティション
- 仮想マシンのサーバープールを作成します。
- そのサーバープールに仮想マシンを作成します。

詳細については、次のサイトにある Oracle VM のインストールドキュメントを参照してください。

http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm

